



# つなぐ

Vol.104

2011  
Spring

平成23年4月1日

発行人 長野県民生児童委員協議会  
会長 百瀬 弘

編集人 編集委員会  
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号  
(長野県社会福祉協議会内)

## 巻頭インタビュー

### 「情報収集力 & コミュニケーション力がカギ」

長野県民生児童委員協議会新会長  
百瀬 弘 氏



## Contents

巻頭インタビュー	2
訪問①高山村「心の通った冬季見守り事業」	4
訪問②伊那市西春近「こんにちは赤ちゃん事業に挑戦」	5
ひるび／山ノ内町・南牧村・中川村・木曾町	6
特別寄稿 諏訪「まるみつ百貨店」閉店の波	8

# 巻頭 インタビュー

昨年12月選任された長野県民生児童委員協議会の百瀬弘新会長に、自身が委員になったきっかけや現役時代の経験を始め、新任のみなさんへのアドバイス、松本市の民児協での活動やエピソードなど、ざっくばらんに語っていただきました。



## 情報収集力& コミュニケーション力がカギ

長野県民生児童委員協議会会長  
松本市民生委員・児童委員協議会会長  
児童養護施設松本児童園理事長

百瀬 弘 新会長

### その日の仕事はその日のうちに 処理がモットー

——民生児童委員になったそもそものきっかけは？  
百瀬 50代半ばの現役真つ最中の頃、バレーボールでアキレス腱を切って入院したのです。この時とばかりに、町会長や福祉事務所の職員が訪ねてきて…。生まれ育った町ですから近所は知り合いですし、町会には精神的には参加していませんから、とうとう引き受けました笑。

——現役時代はどんな仕事をされていたのですか。  
百瀬 電機メーカーで品質管理の仕事をしていました。40代では国内外を飛び回り、英語ができないのにグラフや図形などを使って説明し、海外のエージェントから結構信頼されていたのです。一時は60人近い部下を持って組織内の一人として働いておりました。

——自由奔放な面と、ち密な面、両方をお持ちなのですね。  
百瀬 課題とその対応を日常茶飯事メモに残し部下に渡し、先へ先へと手を打っていくことを心がけていました。

——なるほど、それが今に生きているのですね。  
百瀬 そうかもしれません。仕事はその日のうちに処理することが大切と考えています。私生活でも、「家計簿」「仕分け日記帳」、また「10年日記」も付けています。歩んできた過去が良くわかり、反省の糸口にもなります。

——会長職は忙しいですよ。健康の秘訣は？  
百瀬 人並みの生活をして、日々健康で

いることです。万歩計付きの携帯電話を持ち歩いています。今は、歩くことが気分転換になります。できれば1日1万歩を目標にしています。今日も長野駅から県社会福祉協議会まで歩いてきました。  
——朝は何時に起きますか。  
百瀬 5時40分に起床します。朝、起きて部屋の窓から東の山や雲を眺めながら、今日一日のことを考えます。

——なんだか、完璧な人に見えてしまっていますが。  
百瀬 いやいや、意外とよく物を忘れますよ。今日も予定に時間だけを書き込んであって、なんの用事だったのかわからなくなっちゃって笑、あわてて事務局に確認してここに来ました。

### 課題の共有、達成感や満足感を大切に

——さて、この記事を読んでいる特に新人のみなさんに、心がけて欲しいことがありますか。  
百瀬 今、民生児童委員の地域での立場や役割は変わってきています。それぞれの立場で自分の役割を考えて欲しいですね。身の回りに色々な問題が点在していることに

気付き、関係機関などと連携を取って、





松本児童園で子どもたちとお昼をともにする百瀬さん

解決していくことが大事です。「情報収集力」「工夫やアイデア」「コミュニケーション力」だと考えます。

——いま、民生児童委員の後継者不足だとの声が多様な地域で聞こえてきますが、なぜですか。

百瀬 まず、年金支給年齢が引き上げられ、65歳までは働かなければならないですね。企業年金も10年で打ち切りというところもありますから、老後の資金のために働き、地域より家族生活に目を向けている人が多いと思います。

——では、どうしたらいいのでしょうか。

百瀬 今の時代に相応し、年齢制限を緩和する、また民生児童委員に負担のかからない形で、課題に取り組んでいくことができる仕組みづくりでしょうか？

——では委員の具体的な役割はどのようでしょう。

百瀬 行政からの依頼事項だけではなく、地域の問題を取り上げて、行政などへの意見申も委員の大事な役割です。定例会は、委員がどんな思いで活動しているのか、こうした問題があり、それをどう解決したかというところまで、気兼ねなく発言できる場としてほしいです。課題の共有、達成感や満足感を得られるように工夫して欲しいものです。

### 子どもたちや赤ちゃんとの出会いが喜び

——さて、松本では、民生児童委員が松本児童園を運営していると聞きました。

百瀬 民生児童委員になると、3年に1度、養護基金の積み立てをいただき、施設改修などの運用資金に充て、経営の安定化に活用しております。

——百瀬さんが理事長になってから心がけていることは？

百瀬 月ごとの職員会には出席するようにして、職員の「聞き役」として、現状の課題を共有できるようにしています。一昨日も私立高校の入試合格発表があつて、嬉しいこともあります。

——たとえば他にどんなことですか。

百瀬 「タイガーマスク活動」が各地でおこなっていますが、20人近くの伊達直人があらわれたので(笑)。また施設に対して地域での催事の収益物、見学研修時の見舞い、施設での生活体験者からの見舞いなど、地域や小中学校の理解も深まり支援していただいて、本当に嬉しいことです。

——民生児童委員はどのくらい活動しているのですか。  
百瀬 主任児童委員を中心に毎週月曜日に交代制で子育て支援のボランティアに来ていただいでい

ます。かつては「困窮」した家庭から子供を預かる時代でしたが、今は「虐待」を理由に預かる子どもも多いのも現実です。主任児童委員の活動は、子供たちとのコミュニケーションや若い保育士との交流も深まり、信頼されております。

——松本市は「こんにちには赤ちゃん事業」をやっていますね。

百瀬 平成21年6月からスタートして、地域の民生児童委員と主任児童委員が、プレゼントを持って、赤ちゃんが生まれた家庭を全戸訪問(本人承諾の上)しています。

——率直な感想を聞かせてください。

百瀬 ひ孫のような年齢の赤ちゃんの顔を見ると、命の大切さを感じます。先日うかがったお宅では、きれいに部屋も片付けられていて、お母さんが「子育ては楽しい」と言ってくれました。その笑顔の素晴らしさ、とても嬉しかったです。お母さんたちへのアンケート調査結果では96％97％が訪問してもらいよかったということや、再度来て欲しいとも言われています。日頃、お年寄りに接することが多い私たちが、赤ちゃんや母親との出会いで励まされ、視野も広がっております。

——最後に抱負をお願いします。

百瀬 自分のしたいことができ、自分らしい生活ができ幸せです。私は、定年後にこうした福祉の道に進めて、大勢の仲間や知人ができて本当にラッキーです。時間がないから余計なことを考える暇がない…。時間があるとグーグー寝ることになっています(笑)。そして自分もまだまだ成長してきたいと願っています。今後ともよろしくお願いします。

——ありがとうございました。

訪問

# 民児協 だより



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーと各ブロックの委員から活動を通して感じたことやエピソードを率直に寄稿していただく「ひろば」コーナーです。

## 高山村民生児童委員協議会

### 村伝統の冬季見守り事業を柱に、 日常的な配慮のある地域づくりの裏方として

人口約7600人の高山村は、施策を一つの単位で実施することができ、顔の見える関係を築きやすい規模。民児協も一つ。昨年12月から会長を務める湯本直嗣さんを中心にまとまり、26の集落に18人の委員が活動しています。湯本さんは委員を5期務めたベテランで、6期目で会長に。長い経験から「一番心配なのはひとり暮らし高齢者世帯」。孤独死や高齢者の行方不明などの報道に接するたび

「いずれこの村でも起こり得る」と感じてきました。もう一つが「子どもの虐待」。辛い、深刻な事例は起こっていないものの、やはり「いずれは」という心配を抱いています。

そこで会長就任に際しては、それらを口常の中から未然に防ぐネットワーク作りを提案しました。「新聞配達の人、何日か新聞がたまっている家に気付くはず。組長は配布物を届ける時に異変があれば気付くはず」というように、日々互いを配慮し合うような地域づくりです。

今の活動の中心は、ひとり暮らし高齢者の「見守り事業」。湯本さんが「村の伝統」といって歴史のあるもので、もともとは、お年寄りの冬の栄養補給に牛乳を配る村の事業でした。当時の委員の役割は牛乳を届けることと安否確認。しかし「単なる牛乳配達になっっていないか」との疑問の声が上がり、また事業見直しで村からの予算がなくなったの

を機に、民児協独自の事業として再出発しました。花、子ども達の折り紙、バレンタインデーにはチョコレイトなど、小さな届け物をしながらコミュニケーションを取る見守りを冬季毎週続けています。

見守りの該当世帯ゼロの地区もあれば12世帯を担当する委員も。一方で「子どもに目を向けてこなかった。意外に近所の子を知らない委員も」と湯本さん。手始めに、保育園や学校行事への参加を呼びかけ、児童委員としての面での取り組みも始まっています。



▲高山村民生児童委員協議会のみなさん(前列中心が湯本さん)

## 伊那市西春近地区民生児童委員協議会

地区自治を核に奮闘。  
伊那市初、こんにちには赤ちゃん訪問もスタート。

西春近は天竜川沿いの旧伊那市、飯田線沢渡駅を核に商店街が、小高い丘には伊那西高校があります。「子供の頃、祭りでは青年会が神社で踊りを披露し、町の人を楽しませ、商店街は賑やかだった」と話すのは会長の橋爪伝さん。今、当時の活気はあまりありません。6420戸、高齢化率25%を超える地区もあり、独居や寝たきり老人を各20人近く担当する委員も。

特徴は地区自治区との連携です。平成18年か



▲民生児童委員10人と主任児童委員2人  
(最後列左から4番目が橋爪さん)

ら旧伊那市7地区に設置、一つが西春近地区自治協議会で、地区社会福祉協議会を中心に民生児童委員も一員として、地域を盛り上げようとがんばっています。4月から伊那市では初めて「こんにちには赤ちゃん訪問」を立ち上げ、年間50〜60人の新生児家庭を訪問する予定。主任児童委員と地区担当が手作りのプレゼントを持ち

訪問しようと計画。きっかけは、地区社協が住民アンケートを実施し、介護拠点と子育て支援とを合わせた施設を地区自治協議会をとおして市に提案したが実現しなかったこと。「住民の子育て支援への要望が大きかった。私たちが動かなければと、訪問することを考えた」と橋爪さん。

2月2日の定例会には保健師も出席し、3カ月乳児検診での連携や情報提供など、活発な意見が交わされ「行政とは違う手作りの支援が大切」と事業の基本理念を確認しました。橋爪さんのアイデアで定例会の冒頭には歌を歌って仲間意識を高め、リラックスしてホソネで話し合える雰囲気印象的。

また桜の里の整備・植樹を行い、高齢者を、4月にお花見に招待するという活動もスタートするなど、住民の生活を見守り、小さな幸せにつなげる役割を果たそうとしています。



▲お花見がお年寄りの活力に「細ヶ谷の桜の里」



## 表紙写真募集!!

表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。

日ごろ写真を趣味にしている方々の地域の風景やお祭りなどの風物詩を撮った写真を募集します。掲載させていただいた方にはお礼を差し上げます。

デジカメで撮った作品の電子データをCDRに入れて、撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて県事務局までお送りください。詳細は県事務局(026-225-1613)まで。



ひろば

北信ブロック

ボランティアに携わって

下高井郡山ノ内町民児協

中嶋 正子

「心友傾聴ボランティア」あまり聞いたことのない言葉だと思いますが、傾聴ボランティアとは「相手との信頼関係を前提に相手の話を否定することなくまるごと受け止めて聴く」その技術を身につけた人のことを言います。果たしてこんなことができらるだろうかと思いつつ、研修を修了し活動を始めたのが民生委員1年目のことでした。幸いにも認知症の方が入所されている施設から要請をいただき、共に研修を受講した3人の民生委員で出掛けていきました。最初は、どう接し声掛けしたらいいか不安でしたが、あまり形にこだわらず普段どおり気取ることなく接しているうちにだんだんと打ち解けてくださるようになり、時には一緒に食事をしたりもして、今では月1回の機会を心待ちにしてくださっています。活動を初めて2年目から「鈴の会」を結成。最近では、会員も増えたことからグループを組んでサービスにも週1回出掛けています。出合いを大切に、笑顔で話して

くださることで、私たちも元気をもらって帰ってきます。

また、趣味でフラダンスを習っていますが、この仲間とも地域の敬老会やお茶飲み会へボランティアに出向き、交流させてもらい喜んでいただいています。

これもひとえに家族の理解と支えがあつてこのことと感謝しています。ボランティアは私にとってパワ—の源だと思っています。



▲ボランティア先での会食風景

東信ブロック

「学び合う」をモットーに

南佐久郡南牧村民児協

林 崇介

この度、2期目の民生児童委員として、南牧村の協議会の会長職を承った林です。

第1に心がけていることは、12人の委員で構成される協議会の一体性です。そのために大切にしていることは「学び合う」ことです。定例会でよく発言し、話し合うことにより各委員は学び、自分のことのように経験していけると思っております。

民生児童委員協議会の会長は他の委員会や協議会の役員を兼務する場合も多く、各種会合の出席依頼の頻度は想像以上ですが、できるだけ積極的に出席して、その後ろ姿を見てもらおうと思っております。各委員に指示を与えることは、私としては似合わないと思います。

また、研修会や講演会には前の方に着席して、質問することを心がけています。集中して聞いていないと質問ができないからです。

事務局との関係も大切にしています。事務局との報告・連絡・相談の「ホウレンソウ」が当協議会のチー

ムワーク向上に欠かせないと思うからです。

この度、南牧村立の複合支援ハウス「きぼうの家」が竣工しました。高齢者5人、障害者3人の、独居では不自由ですが、老人ホームにはまだ早いという方々のためのハウスです。実際の入居は4月からですが、これが必要ならば、より不自由な生活を強いられる人たちに安心を与えられるわけで、私たち民生委員も喜んでいくつもりです。



▲複合支援ハウス「きぼうの家」

南信ブロック

飯島町民生児童委員協議会との  
交流会

上伊那郡中川村民児協

中飯 壽勝

中川村は上伊那郡の最南端に位置し、天竜川をはさむ河岸段丘の地形であり、人口は5200人、世帯数は1500世帯の中山間地の村です。隣接の飯島町民児協との交流会は23回となります。先輩の皆さんから受け継がれてきた事業は、両町村が交替で当番にあたり、両町村内の工場や農業生産施設・介護関係施設等の見学、講師を招いての講演会やマレットゴルフのプレーをしながら交流を図っております。

開催月は7月で、昨年は飯島町が当番でした。酢の醸造工場を見学し、その後「健康運動アドバイザー」山岸洋子先生の指導により「心と身体から自分を知る」をテーマに、人間の運動動作の元となる力が、体の奥から末端までスムーズに伝達できる「身体磨きトレーニング」ということで、柔軟性筋肉の伸びを取り戻す運動を行いました。無理をしないで軽く体を動かす体操に全員が汗を流しました。その後は会場を移しての



▲飯島町民児協との交流会「身体磨きトレーニング」の様子

懇親会となり、委員の皆さん1年ぶりの再会を楽しみながら、近況や共通の課題などが話し合われ、交流と懇談が和やかに行われました。

今年度は、私たちの民児協が当番となります。両町村の民児協交流の機会づくりを考えながら、地域で信頼される民生児童委員となれるよう活動して行きたいと思っております。

中信ブロック

笑う門には……

木曽郡木曽町開田地区民児協

原田 一善

5年前、開田地区民児協会長から「今年、木曽郡北部ブロックの研修会を開田でやるんだが、その席で親子落語をやってくれないか」と声がかかりました。

「まあ、この人の頼みならやってみるか」と軽い気持ちで受け、3年生の息子とステーションへ。緞帳が上がリ、ビックリ！「何、この人数！しかも町長も議長も、あの人もこの人もいっぱいいるし……」。後の祭りです。その反面、息子は平気な顔をして、いつも以上の出来。大きな拍手をいただき、楽屋へ下がると「お父さん、あそこ間違えたよネ」と、冷や汗の背中に追い打ちをかける冷たい一言。終わってホッとしたあの日から1年後、あの会長と役場の課長が我が家へ。まさか民生児童委員の依頼が来るとは思いませんでした。「開田があんなことやるもんだから後の人が大変だよ」と言いながら、各地区の委員さんが趣向を凝らす北部ブロックの研修会は大いに盛り上がりです。委員同士のコミュニケー



▲平成22年の木曽郡北部ブロック民生児童委員研修会の様子

ションがとれ、次は何が出るのか楽しみに参加しています。先行き不安の多い世の中ですが、だからこそ横のつながりを大切に、地域の方々と同じ目線で見つめ合って明るく笑顔で頑張りたいと思います。「笑う門には福来る」と信じて。

# 諏訪「まるみつ百貨店」閉店の波

## 上諏訪駅周辺に 「買い物弱者」が多数出現

昨年の年末に、上諏訪駅前にある「まるみつ百貨店」が2月20日をもって閉店することが突然発表されました。市民にとって寝耳に水の話で、さあ大変となりました。上諏訪駅周辺の高齢者は、日々の生鮮食品を丸光の地下街で購入しています。このあたりにあった個人商店は、ほとんどが閉店してしまい、車を使用しない人にとっては、徒歩で行くことのできる唯一の店になっていました。これで「買い物弱者」が大勢出るようになりました。

そこで市と商工会議所が上諏訪中学校区の民生児童委員に、急きょ買い物弱者のアンケート調査を依頼してきました。その結果1400人余りの買い物弱者がいることがわかりました。

(2月8日現在)

## 高齢者が自ら買い物 することが自立に

今後の緊急対策として、2月21日から市は、「お買い物タクシー」を実施することを発表しました。また「福祉の町づくり市民協議会」との連携で、チラシによる注文宅配を検討中とのこと。また商工会議所が、周辺の個人商店マップを作成して周知を図りたいことも考えて

いるのです。(2月10日現在)

現在のところ決定的な解決策は、まだ見つかっていません。「まるみつ百貨店」のお隣に諏訪プラザという建物があります。この中に「まるみつ」に代わる生鮮食品のお店ができればいいのですが、なかなか難しいようです。今回のことは、町の中にも買い物弱者が出現することを証明しました。

高齢者にとって、自分の欲しい物を自分で買い物すること、これが自立できていると実感することではないでしょうか。いろいろ食材を見ながら購入し、それを使って日々の食事を作り、食べることに。これこそ認知症予防になり、元気の源になることだと思います。



▲閉店した上諏訪駅前のまるみつ百貨店

## 編集委員

### リレー日記

今号から本紙のフォームや内容が一新されました。編集委員も新しいメンバーになり、私たち4人が引き継ぐことになりました。

表題に掲げた「つなぐ」は、言うまでもなく民生児童委員の基本的な役割の一つですが、同時に、本紙が委員相互のコミュニケーションの場でありたいという思いも込められています。

内容については、皆さんからの寄稿に加え、取材によるレポートや専門家へのインタビューを通して、地域に根ざした活動や直面している問題などを取り上げ紹介したいと考えています。初回の特集では百瀬弘民児協会長に登場していただきましたが、今後、取材などで皆さんにご協力いただく機会があると思います。できるだけお願いいたします。取材と編集については、企画制作クリエイティブ・アイズの協力を得ることになりましたが事務局とも一体となって紙面の充実を図りたいと思います。

私たちの活動がますます複雑多岐になるなか、紙面を通してその悩みや喜びを共有できればと思います。皆さんの貴重な体験やご意見をお寄せください。

(編集委員一回)